

泉佐監第84号
平成24年8月16日

泉佐野市長 千代松 大耕 様

泉佐野市監査委員 明 松 優
同 野 口 新 一

平成23年度泉佐野市財政健全化審査意見について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第3条第1項の規定により審査に付された、平成23年度泉佐野市健全化判断比率並びにその算定の基礎となる事項を記載した書類を審査したので、次のとおり意見を提出します。

平成23年度 泉佐野市財政健全化審査意見書

1 審査の対象

(1) 実質赤字比率

普通会計に相当する一般会計及び特別会計（以下「一般会計等」という。）を対象とした実質赤字の標準財政規模に対する比率

(2) 連結実質赤字比率

全会計を対象とした実質赤字（又は資金の不足額）の標準財政規模に対する比率

(3) 実質公債費比率

一般会計等が負担する元利償還金及び準元利償還金の標準財政規模に対する比率

(4) 将来負担比率

一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率

2 審査の期間

平成24年7月17日から平成24年8月8日まで

3 審査の方法

市長から審査に付された健全化判断比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類が適正に作成されているかどうかを主眼として、財政担当者から説明を聴取して審査を実施した。

4 審査の結果

(1) 総括的意見

審査に付された健全化判断比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類は、いずれも適正に作成されているものと認められる。

(2) 個別的意見

(単位：%)

健全化判断比率	平成22年度	平成23年度	早期健全化基準	財政再生基準
①実質赤字比率	2.92	1.89	12.35	20.00
②連結実質赤字比率	—	—	17.35	30.00
③実質公債費比率	21.0	21.2	25.0	35.0
④将来負担比率	383.0	364.9	350.0	

①実質赤字比率について

平成23年度の実質赤字比率は1.89%となっており、前年度と比較して1.03ポイント改善している。これは、税込で4.6億円減少したが、交付税で4.4億円及び生活保護に係る国庫支出金で2.4億円それぞれ増加したことや、人件費の減少等により、単年度収支は2.2億円の黒字となり、実質収支が4.1億円の赤字となったことによるものである。

②連結実質赤字比率について

平成23年度は、一般会計で実質収支が赤字となったものの、国民健康保険事業特別会計の実質収支の黒字や水道事業会計が資金剰余となったことにより、連結実質赤字比率は、前年度と同様に負の値(-9.42%)となっている。

③実質公債費比率について

平成23年度の実質公債費比率は21.2%となっており、前年度と比較して0.2ポイント悪くなっている。実質公債費比率は3年間の平均値であるので、平成20年度と平成23年度を比較すると、平成23年度では、一般会計等の元利償還金の額について、宅地造成事業会計廃止及び市立泉佐野病院の地方独立行政法人化に伴う第三セクター等改革推進債でそれぞれ2.6億円ずつ合計5.2億円程度増加したこと等によるものである。

また、早期健全化基準の25%を下回っているが、悪化傾向にあり、良好とは言えない。

④将来負担比率について

平成23年度の将来負担比率は364.9%となっており、前年度と比較して18.1ポイント改善している。これは、将来負担比率を求める算定式の分子となる額（将来負担額－充当可能財源等）が、一般会計等における起債残高の減少等により、前年度と比較して29.6億円減少したことによるものである。

しかしながら、早期健全化基準の350.0%と比較すると、依然これを上回っており悪い状態である。

(3) むすび

平成23年度は、将来負担比率を除く3指標について、早期健全化基準を下回っているが、今後も公債費負担が大きくなる見込みである。平成22年2月に策定された財政健全化計画を着実に実行されることを望むものである。